



ほうへいかいほう

Vol.70 2013.3.15

# 豊平會報

北海学園大学同窓会 ● 編集責任者 / 高田哲也 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL 011-841-1161



競技ダンス部

写真提供：㈱ラボット

## C O N T E N T S

●同窓の夕べ .....	2
●卒業おめでとう .....	3
●全国支部長会議 .....	4
●第5回ホームカミングデー報告 .....	5
●輝く北のまち紹介リレー 訓子府町 .....	6
●卒業生奮闘記 .....	7
●入試情報 .....	8
●就職戦線 .....	9
●研究室のいま 樽見弘紀教授 .....	10
●現役学生インタビュー .....	11
●熊本信夫先生瑞宝中綬章受章 .....	12
●支部紹介「写真部 OB 北彩会」 .....	13
●支部だより .....	14
●支部現況・連絡先 .....	15
●クラブ・サークル活動通信 / 事務局からのお知らせ .....	16

平成24年度総会・懇親会

# 同窓の夕べ

同窓との絆を深めて



全国から参加した支部長紹介



山木康世ライブ



山木康世氏



挨拶する森本会長



文協スペシャルバンド

交換教授と一緒に



支部旗授与(リコージャパン支部)



ピンゴ!(海外旅行)



北海学園大学同窓会の本年度の総会・懇親会が10月20日(土)に開かれ、道内外からの同窓生・学園・大学関係者ら約800名が出席した。

総会では、関寛副会長の開会宣言で開催された。

森本正夫会長の挨拶、木村和範学長の祝辞、高田哲也事務局長の会務報告が行われ、新しい支部としてリコージャパン支部が誕生した。

挨拶で森本会長(北海学園理

事長)は、学長をはじめとする来賓の方々の出席を謝し、「母校の更なる発展のために、同窓各位のご協力をお願いします」と結んだ。

引き続き懇親会が行われ、北海道高等学校 北明邦雄校長の乾杯の音頭の後、懐かしい恩師や仲間との歓談、その合間には、現役学生の文化協議会の地方公演「スベシヤルバンド」演奏と元ふきのとう 山木康世(工学部昭和49年卒業)ライブが花を添えた。

また、「学園グレイトピンゴ」

特賞のソウルペア旅行には、木下栄一氏(昭61法)がピンゴ!

ステージ上ではグリーククラブOBによる学歌斉唱。

最後に応援団OB 佐藤礼仁氏(平7法)のエールに合わせて『学生歌』を全員で斉唱し、名塩良一郎副会長の三本締めでお開きとなった。

平成25年度の総会・懇親会は、10月26日(土) 18時より札幌パークホテルで開催します。



名塩副会長による三本締め



グリーククラブOB会による学歌斉唱



エールと共に全員で学生歌斉唱

## 平成24年度

### 『同窓の夕べ』 ピンゴ当選者

- 劇団四季ミュージカル『マンマ・ミーア!』S席 ペア2組
  - 大庭 雄一氏 昭49法
  - 菊地 国行氏 昭52経
- パークゴルフセット 3セット
  - 小場 博義氏 昭52法
  - 渡邊 高彦氏 昭41経
  - 野澤 聖一氏 平2営

### ●海外旅行

- 2泊3日 ペア1組
  - 木下 栄一氏 昭61法

### ●温泉旅行 道内温泉1泊2日 ペア5組

- 小林 稔昌氏 昭59経
- 山口 達人氏 昭55法
- 河井 基博氏 平6法
- 小柳 純氏 昭49建
- 早川 忍氏 平9建

### ●サイクロン掃除機 5台

- 佐々木 良氏 平9土
- 花田 和典氏 昭53経
- 浅元 淳一氏 昭57法
- 佐藤 征夫氏 昭42経
- 勇崎 建夫氏 昭44経

### ●折りたたみ自転車 8台

- 峰尾 義明氏 昭58土
- 高森 裕司氏 昭60経
- 北村 隆政氏 昭41経
- 古山 康弘氏 昭61営
- 長谷川裕詞氏 平5法
- 北明 邦雄氏 北海高校校長
- 曹 宸 陣氏 留学生
- 王 洪 偉氏 留学生

- ニトリホールディングス  
ソックス2種・ヘアブラシセット 800本 出席者全員



### 新会員に期待する

会長 森本 正夫



北海学園大学・同大学院の学生生活を終え、晴れの卒業証書・学位記を手に新しく社会に雄飛される諸君に心からお慶びを申しあげます。

本日からは北海学園大学同窓会の会員として新たに仲間入りしていただくことになりました。若く実行力に富む皆様をお迎えできることは本会としては何ものにも替えがたい力強さを感じるものであり、心から歓迎の言葉を申し上げます。

ご承知のように、北海学園大学は昭和25年に北海短期大学として発足し、27年には北海道における最初の4年生の私立大学として創立されました。今日では5学部12学科、各学部には大学院(博士課程)を有する道内最大の私立総合大学として、教育・研究実績が高く評価されております。

ここで改めて述べるまでもなく、同窓会は独立して存在するものではなく、常に母校北海学園大学の発展と一体となって将来を展望するとともに、会員78,000余名のひとりひとりがその重要な役割を充分にはたしていかなくてはならないと考えるのであります。近年私立大学を取りまく環境は、長引く経済不況、そして回復の目途が立たない少子化社会の到来等、厳しいものがあります。

このような時期に、皆様を会員として迎えることは、大変力強いことであり、社会人としての活躍を期するとともに、会員として母校発展のため、大いに協力をお願いし、歓迎の言葉といたします。

# 卒業おめでとう

### 卒業生の声

- Q1 学園大に入って良かったこと
- Q2 大学で頑張ったこと
- Q3 4月からは...(進路等)
- Q4 あなたにとって「仲間」とは?

**経済学部経済学科 片山 志保**  
所属ゼミ/神山ゼミ  
所属サークル等/写真部



- Q1 今後の人生も共に笑って過ごすことのできる仲間と出逢えたこと。大学4年間、大好きな人達に囲まれて本当に幸せでした。
- Q2 色々なアルバイトを通じて人とのコミュニケーション能力を養ったこと。アルバイトの経験は自らを大きく成長させてくれました。
- Q3 札幌市学校事務として子ども達が快適な生活を送るサポートをしています。子ども達の笑顔を見ながら働くことが今から楽しみです。
- Q4 幸せなことは2倍、苦しいことは2分の1。私の人生にとって一番のかけがえのない存在です。皆に出逢えたことに感謝しています。

**経済学部経済学科 安部 美穂**  
所属ゼミ/小坂ゼミ  
所属サークル等/スポーツ観戦同好会



- Q1 多くの出会いがあり、今も続いていることです。サークル、ゼミ、ミナトコムジュニアで知合った方々とはこれからも交流していきたいです。
- Q2 サークル活動です。副会長を任せて頂き、力不足を痛感しながらも周りの部員に支えてもらってこまごますることが出来ました。
- Q3 北海道アルバイト情報社に就職します。営業として北海道の企業と人をつないでいきたいと思ひます。がんばります!
- Q4 楽しさや喜びを1番に共有したいと思う人達です!! 卒業してからもずっと交流を続けていきたいと思ひます。

**人文学部日本文化学科 柳川 英史**  
所属ゼミ/大石 和久ゼミ  
所属サークル等/北海学園大学I部十月祭実行委員会



- Q1 北海学園大学I部十月祭実行委員会で活動できたことです。仲間と協力して学校祭を運営した思い出は、忘れることのない一生の宝物です。
- Q2 卒業論文です。一年以上かけて一つの論文を作り上げていく中で文章力、構成力、様々な知識を身に付けることができました。
- Q3 株式会社ほくやくに就職します。医療機関へ医薬品の販売・情報提供を行い、北海道の医療の縁の下の力持ちとして働きます。
- Q4 自分の駄目な所を本気で指摘してくれる、自分の話に本気で耳を傾けてくれる。そしてくだらないことで本気で笑い合える友人達です。

**経営学部経営情報学科 高道 大輝**  
所属ゼミ/大平ゼミ  
所属サークル等/準硬式野球部



- Q1 公務員受験生に対する支援がしっかりしていることです。キャリア支援センターやコムエッグの方からのアドバイスは貴重でした。
- Q2 部活動では全国大会に出場することができました。文武両道、4年間頑張りました。ほんとに野球って、いいものです。
- Q3 札幌国税局に就職します。近い将来は、本庁や財務省に出向し、キャリアを高め、国民に奉仕したいと思ひます。
- Q4 部活動、ゼミ、コムエッグメンバー等、私の4年間の中で、なくてはならない存在です。これからも、関わっていきたく思ひます。

**工学部社会環境工学科・社会環境コース  
(大学院工学研究科・建設工学専攻・修士課程)  
亀山 初基**  
所属ゼミ/嵯峨浩研究室 所属サークル等/硬式庭球部



- Q1 友人や先生方といった様々な人に出会えたことです。大学生生活での出会いがあって今の自分があるのだと思っています。
- Q2 大学院での研究です。学会に論文を投稿し、発表したことは良い経験となりました。研究から学んだことは大切にしたいと思います。
- Q3 札幌で建設コンサルタントとして働きます。大学で学んだ土木の専門知識を活かして社会に貢献していきたいと思ひます。
- Q4 苦しい時に自分を支えてくれる存在であり、自分が成長するために欠かせない存在です。今後も交友関係を大切にしたいと思います。

**人文学部英米文化学科 伊藤 瑞季**  
所属ゼミ/安藤ゼミ  
所属サークル等/女子空手道部



- Q1 充実した大学生活を送れたことです。たくさんの人と出会い、多くのことを学びました。通わせてくれた両親に感謝しています。
- Q2 部活動です。未経験で入部し、幹部として約2年活動しました。苦労も多くありましたが同期2人のおかげで最後まで頑張れました。
- Q3 アパレル会社の社員として旭川で働きます。楽しく笑顔で働き、毎日を無駄にせず成長し、最短の半年で店長になります。
- Q4 音楽を共にし、同じ時間を共有した人です。同期、ゼミ、英米、ミナトコムジュニアのみんな、友人たち、出会えて良かったです。ありがとうございます。

## ●協賛● 平成24年度『同窓の夕べ』ビンゴ景品一覧

● 海外旅行(2泊3日)ペアでご招待	1本	● 日本酒セット	5本	● 榊廣濟堂
● 温泉旅行(定山渓・登別・洞爺1泊2日)ペアでご招待	5本	● 北の錦 本醸造	12本	● 小林酒造(株)
● 劇団四季ミュージカル『マンマ・ミーア!』		● 図書カード(5,000円分)	5本	● 中西印刷(株)
S席ペアご招待券	2組4名	● お米券(8kg)	5本	● 榊須田製版
● 折りたたみ自転車	8本	● ワイン	20本	● 道路工業(株)
● パークゴルフセット	3セット	● スパークリングワイン	6本	● 榊アイワード
● サイクロン掃除機	5本	● 防災テスラライト(ソーラー、手回し充電付)	3本	● 榊マキ商会
● タニタ体組成計 インナースキャン	1本	● AM/FM ポケットラジオ	5本	● 榊マキ商会
● ホームベーカリー	1本	● ペアコーヒークップ&ソーサー	6本	● 榊すぎたま
● ミル&ミキサー	1本	● 北の想い出	20本	● 榊ナシオ
● くつ乾燥機	1本	● ボーダーソックス、アーガイルソックス、ヘアブラシセット	800本	● 榊ニトリホールディングス
● パーソナル加湿器	2本			
● 食事券	6本			
● 芋焼酎 海童「祝の赤」 濱田酒造(鹿児島)	20本			
		● 劇団四季		
		● 中道リース(株)		
		● エルムリース(株)		
		● 札幌トロフィー(株)		
		● 北海学園大学同窓会		
		● 札幌パークホテル		
		● カタギリ・コーポレーション(株)		

★ビンゴ景品のご寄贈ありがとうございました

# 平成24年度 全国支部長会議

全国支部長会議が、10月20日(土) 12時30分より札幌パークホテルで開催され、全国三十七支部から支部長と支部長代理が出席し、同窓会役員と支部の現況等について意見交換がなされた。また、今回は本学入試部長真柄祥吾先生より、「入試の現状」について、本学キャリア支援センター吉村武彦事務長より「キャリア支援センターの現状」についての講演も行われた。(出席者名簿はホームページを参照ください)



# 池田桑男教授を偲んで



平成24年11月14日池田桑男副会長が逝去されました。突然の訃報に接し衝撃を受けました。

池田先輩は本学法学部卒業生で唯一の教授として活躍なされてきたことは承知の通りであります。

在学時から法研究会のリーダーとして「模擬裁判」をサークル活動の基軸におき今日までその伝統が引き継がれております。

北海道大学大学院を卒業後、本学の教官として後進の指導にご尽力いただいております。

近年では法科大学院の充実にも力を注ぎ、多くの卒業生を法曹界に送り出させていただきました。

同窓会活動では昭和54年から副会長として30年以上森本会長のもとご指導賜りました。

法学部同窓の集まりでも中心的役割を担っていただき「ゆうほう会」顧問として私達の面倒をみていただきました。

まだまだご活躍いただける事を期待していましたが誠に残念でなりません。

ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

平成25年初春

同窓会副会長

関 寛  
(法学部昭和45年卒)

# グレイトビンゴ当選者

# 韓国旅行記

木下 栄一

法学部法律学科  
昭和61年卒業

10月20日ステージ上を同窓の皆さんが衆目している中、自分があつという間にビンゴしてしまい、短時間で皆さんの希望を奪ってしまったことを申し訳なく思っています。11月下旬に妻を連れ2泊3日の韓国旅行へ行つてまいりました。妻と二人で旅行するのは実に新婚旅行以来十数年ぶりであったことに気づき、お陰様で、妻への孝行にもなりました。

韓国へは初めての入国で、行く前は、職場の韓国通におすすめのスポットを聞き、初韓国に臨んだのですが、一番苦労したのは、ウォンの桁が多く、免税店ではドル表示、円も使えるなど、短い期間では頭を切り替えることができず、価格の感覚がほぼなかったことでした。それ以外は、明洞のホテルに宿泊し、海鮮鍋、焼肉、参鶏湯、アワビ粥などの食事、現代ショーの「ナンタ」、足マッサージを堪能でき、あつという間の3日間でした。

韓国の印象は、非常に自動車の交通量が多く、人より自動車優先しているようであり、高いビルが多く、都会的な街並みが続いている中、明洞の中心では、ビルの谷間に毎日屋台が出て、観光客だけではなく多くの人々が繰り出し、お祭りのような賑わいでとても楽しく過ごすことができました。

今回のような強運はこの先あるかわかりませんが、「同窓会の夕べ」のグレイトビンゴのおかげで、自身では行くことにはなと思っていた韓国へ向け、韓国への認識を改めることができましたことを非常に感謝しております。

また、お世話頂いた同窓でもある(株)遊プランの菊池様、大変ありがとうございました。



# 第5回 ホームカミングデー開催報告

2012年10月6日(土)

2012年10月6日(土)、豊平キャンパスにて、第5回「ホームカミングデー」を開催しました。今回は、「震災に学ぶ～住環境を考える～」と銘打った講演会や学園大OBの有資格者による無料相談などを行ないました。また、生協食堂での昼食の無料提供や札幌カイロプラクティックドクター専門学院札幌校生徒による無料カイロ施術、そして、写真部OB北彩会による写真展にも卒業生や友人・お子様連れのお家族など約200名の方が参加しました。

## 「震災に学ぶ ～住環境を考える～」

講演1. 「北海道の電力事情」

北海学園大学経済学部  
小坂 直人 教授 (開発研究所長)



小坂直人教授

講演2. 「あなたの家は大丈夫ですか？」

北海学園大学工学部  
真柄 祥吾 教授 (入試部長)  
コーディネーター  
北海学園大学法学部  
樽見 弘紀 教授 (法学部長)



真柄祥吾教授



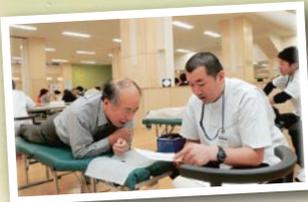
樽見弘紀教授



開会挨拶



## 「カイロ施術」 ～疲れた筋肉、疲労を緩和～



## 「学園大OBの 有資格者による 無料相談」



## 「学食deランチ」



## 写真部OB北彩会による 「写真展」



落とし物のお知らせ  
「ホームカミングデー」で  
黒い手袋の落とし物  
がありました。

お心当たりの方は、同窓会事務局までご連絡下さい。

# 北海学園大学 OB 異業種ネットワーク 秋季例会報告 (H24.12.1)

北海学園大学 OB 異業種ネットワーク主催第2回目となる秋季例会が平成24年12月1日(土)に母校北海学園大学豊平キャンパスを会場に開催されました。講師には本学理事長である森本正夫氏に「学校経営と卒業生に期待すること」と題し約60分にわたりご講演をいただきました。



創設間もない本学で学んだ思い出やエピソード、教授から学校経営に携われた経緯や苦労話など、躍進を続ける現在の本学から想像もできないような当時のお話を伺う事が出来た貴重な講演会となりました。

また、会場となった国際会議場は普段立ち入りが制限されていることから、参加者からは「国際会議にも対応できる会場で理事長のお話を伺えたことは素晴らしい機会だった」との声が聞かれました。

その後行われた懇親会は懐かしい学生食堂を会場に開催さ

れ、木村学長から同窓生に対しての激励の挨拶の後、世話人である関崇博の乾杯発声でスタートしました。

今回の懇親会趣旨は参加者同士がお互いを理解し合うことを目的に、一定の時間で席替えをして

より多くの方々と交流を深めました。約70名を超える参加者でしたが、会場のあちらこちらで名刺交換の輪ができるなど終始にぎやか懇親会となりました。この日は学食を貸し切り、学生時代に戻ったような楽しい時間を過ごすことができました。

最後に同窓会の関寛副会長から中締め挨拶があり、参加者同士次回の再会を約束しながら散会となりました。



(文責 世話人代表 小林米三郎)

# 輝く北のまち 紹介リレー

① くねっ ぶ  
訓子府町

～すべての町民にやさしいまちづくりを目指して～



人口：5,553人  
面積：190.89km<sup>2</sup>

今回から新企画として、北海道内の町を訪問し卒業生とのインタビューを通じて、町のご紹介をしながら町の魅力を再発見していきます。第1回目は「訓子府町」です。

年末も近い12月19日、訓子府町役場に菊池一春町長（経済学部2部経済学科・昭和45年卒）を訪問しました。解放的で明るい雰囲気役場庁舎2階にある町長室にてお話を伺いました。



## ～開拓者の想いを繋ぐまち～

明治30年、高知県からの北光社移民団13戸45人の入植から訓子府のまちの歴史が始まりました。坂本龍馬の甥・坂本直寛を代表とする一行は未開のクネッブ原野に開拓の光を灯しました。開拓と同時に教育の普及とその継承がなされ、115年が経過した現在も彼らの精神は脈々と受け継がれています。

土佐の「いごっそう精神」で、北の肥沃な大地に鋤を入れ切り開いた土地は豊かな実りをもたらし、じゃがいも、玉ねぎ、小麦、水稲、ビート、メロンなどが主要野菜として生産されています。

入植から数年後、開拓者が上常呂町に教授場を開き子弟の教育に力を入れたことにも大きな意義があります。明治44年には鉄道を敷きました。北の大地に新天地を求めた全国各地から入植された開拓者の熱い想いを受け継ぎ、多くの人々の苦勞と困難に立ち向かう努力が今のまちの発展に繋がります。

## ～農業の明るい将来・子ども達の夢あふれる未来～

人口5,553人、面積190.89km<sup>2</sup>の訓子府町は、オホーツク管内で面積が一番小さい町ですが、農業粗生産額が大変大きく農業の将来への期待が持てる町です。現在では約120億から130億円の生産額があります。畑作農業と酪農畜産が中心ですが、大手食品企業、石灰工業や農業試験場、畜産技術研究所などもあり北海道農業の縮図とも言われる町です。

一般的に農家には後継者問題がありますが、訓子府町ではその心配が少なく若い後継者達が町に戻り始めています。地元の人々が地域に根付いた活動をしていて、現在は4代目を中心に頑張っています。

歴史と共に育まれた自然、産業、教育、文化と、素晴らしい町民がまちの財産です。敢えて「観光の町ではなく、農業中心の町」であることに自信と誇りを持っています。

訓子府町でジャガイモが生産されて100年が経ち主要作物として成長していますが、一方で「そうか病」や「シストセンチュウ」などの発生が心配されます。北海道北見農業試験場で品種改良された「スノーマーチ」普及に向けて生産者が立ちあがっています。スノーマーチを原料とする焼酎を開発し、名前も公募で「訓粹」（くんすい）と決まり限定販売を続け、昨年からは原酒も販売され人気を博しています。

3年前から町民の自主活動に町民税収1%分を活用した「元氣補助金」が制度化され、赤ジソを原料にしたジュース「むらさきしきぶ」の製造や酪農女性によるチーズづくりに発展しています。町民の自主的活動の後押しを進めて支え励まし合うことも役場の大切な仕事ですね。

安全・安心で質の高い生産物と農業に懸ける情熱的な思いを持った素敵な人が多い訓子府町が私を虜にしました。それが町長になる原動力にもなりました。かつて、北の大地に理想郷を求めた坂本直寛の想いと同じように、私も何となくとも良いまちにしていきたいという想いを強く持っています。まちのために命を懸けています。企業誘致はあてにしません。多面的で多様な農業の発展への取り組みを開始して、農業の将来に大きな夢と期待を持っています。

また、「子ども達をみんなで育てよう」という思いで、子育て支援センターの開設や放課後の子どもの生活を豊かにする児童センター無料化などを行っています。子ども達の医療費の無料化を始め町民が安心して子育てが出来る環境を整えることが大切であり、新しい幼保一元化への取り組みも開始する予定です。子ども達に未来を託したいと考えています。

訓子府高校卒業生の就職率は100パーセントです。これは誇るべきことです。地域に開かれた学校であり、子ども達を地域で育てるといった町民の気持ちの成果の表れです。

## ～まちづくりの課題～

すべての町民にとって、やさしいまちにしたいと常々思っています。

私は福祉の先進国である「デンマーク」を今まで2回訪問して福祉の勉強をしてきました。最新の福祉現場の事情を知り、関係者との連携を継続するためにデンマークの方々や全国の仲間達との交流は続いています。

超高齢社会の到来を迎え大きな課題のひとつに、公共交通の問題があります。北海道の総合交通体系の充実と確保の重要性を関係者の場で発言し続けています。平成18年4月20日に、第3セクター鉄道の「ふるさと銀河線」が廃線となり最終列車を見送った無念さが忘れられません。

鉄道に代わるバス路線の確保と共に、新しい「タクシーサービス」制度を開始しました。75歳以上の方が月に4回まで520円で町内どこまでも一律料金でタクシーに乗ることができる独自のシステムで、さらにまた「バス利用補助金」も北見市や置戸町に通院、買物に利用するバス料金を300円（通常590円）とするシステムで大変好評です。町民の交通権の確保もまちづくりにおける課題です。

## ～母校・後輩に期待する思い～

志を持って働きながら学ぶことを受け入れてくれた大学には心から感謝しています。1970年代前後の激動の時代に、確かな視点で物事を見つめることの重要性を学びました。二部学生自治会委員長として授業料値上げ反対闘争にも巻き込まれましたが、真理を求め学んだことを自分の血肉にしながら、部活や自治会の活動を通じて生きることの基本を身に付けることが出来ました。

後輩の皆さんには、勉強はもちろん宇宙、世界規模の様々なことにチャレンジして欲しいと願っています。ある意味では「変革者たれ」という思いです。

昨年10月には、北海学園大学同窓会「同窓の夕べ」に初めて参加しましたが、現場の教職員の参加が少ないことに非常に驚きました。卒業生と教職員の皆さんが直接話し合い交流出来る貴重な機会ですから、新しい出会いと「絆」を大切に次回は将来の夢の実現に向けての人の繋がりを作っていけるような場面があることを期待しています。教職員の皆さんの参加を義務付けるぐらいの思いにかられました。



また、一層地域に開かれ支えられる大学であって欲しいと思います。それが大学の存続を可能にします。日本の私学のNo.1を目指して欲しい。研究成果を内部だけに留めずに広く情報公開していくことで地域との連携に繋げていくことが可能となります。既に、多くの地域課題、生活・生産課題の発見と解決に向けて道内の各大学と研究者、町との共同研究などの連携もありますが、今後も繋がりを深めていくことがあればと考えています。

（取材・文責 同窓会幹事 成田真利子）

ガフハルOB・OGをフォローアップ

卒業生奮闘記

北海道文化放送(株) 函館支社 支社長

# 松沢秀明 氏

Hideaki Matsuzawa

法学部法律学科  
15期 1981年卒



### ■プロフィール

札幌生まれ。ゼミは池田糸男先生（民事訴訟法）。大学卒業後、UHB 北海道文化放送 報道部 アナウンサー職として入社。報道アナウンサーとして、定時ニュースのキャスター、現場での中継・取材をし経験を積む。平成8年、報道記者に転向。その後、ニュースデスクやアナウンス部の責任者を経て、2011年10月から現職。

## 「UHBの顔」の一人として時代を見つめてきた

大学では、多くの友人が公務員志向だったなか、私はそれには見向きもせず一般企業のみ。特に無謀とは思いましたが、テレビ局への就職に憧れていました。なぜテレビ局だったのかというと、私自身がテレビっ子でドラマやアニメとずいぶんテレビ番組を見ていましたから、そういう仕事もいいなと考えていたわけです。ただ、私はどういうわけかコマーシャルが好きで、CMのディレクターになりたくて、実は電通も受験したのです。でもだめでした。

そうした経緯の中で、UHBに挑戦してみようと思って履歴書を出しました。その頃は誕生して9年目の若い放送局だったのですが、これからどんどん成長するぞ、という意気込みにあふれていました。私が卒業する年は、一般職の募集はなく、アナウンサー職の募集しかなくて、私はそれまで高校での朗読を少しやった程度の経験しかありませんでしたから、多分、だめだろうと思っていた。ところが、一次試験に受かり、二次試験も通ってということで、しゃべった経験が全くといっていいほど少ないのに、妙な自己暗示にかかったのか自信がついたのです。アナウンサー職に向いているかどうかの適性試験にも受かって、その年2名の採用枠の一人として合格したわけです。そこから、放送人としてのキャリアが始まりました。それから今日まで32年という歴史を刻みました。感慨深いです。

ただ、入社してからはアナウンサーとしての研修に苦労しました。基礎から始めなければならない。声がいいという取り柄だけでしたから、基礎訓練は地獄のような日々でした。普通ならば、3、4ヶ月くらいの研修でデビューするのですが、私の場合は半年、9月までかかった。訓練だけで給料をもらっていたわけですから、周囲の目にも厳しいものがあったと思います。それがようやく本番で原稿を読むことができるようになった。ところがそれも報道ジャンル、アナウンサーが取材をして原稿を書いて、それをニュースとして読むということをやられました。日々、勉強の連続です。迂闊なことは言えませんから、常に正確な取材を心がけることを肝に銘じていました。印象に残っているのは、乗員乗客269人が犠牲になった大韓航空機墜落事件（1983年）、本州と北海道が鉄道でつながった青函トンネル本坑貫通（1985年）、日本のエネルギー政策を支えてきた夕張炭鉱閉山（1990年）でしょうか。青函トンネルは貫通地点に実際にいましたからね。

テレビに出てニュースを読んでいるとたく



さんの人に顔を知られていますから、プライベートがないことも大変でした。お酒を飲んでいても馬鹿なことではできません。いうならば「有名税」ということになるのかも知れませんが、「毎晩、8時55分からのニュースを読んでいる人ですよネ」と、全く知らない人からも声をかけられる。UHBの顔でした。

## テレビの「最後の砦」としての力量が重要

そうしたキャリアを積んできて、現在は、第一線から離れて函館支社長という管理職の立場にあります。函館は12年前に記者として4年ほどいましたので、2回目の赴任ということになりますが、今は、支社長という立場で営業に専念しています。それまでは予算を使う立場にいましたが、今は制作現場の予算を確保する仕事です。現場にいた時には、お金は使うものですが、今は、できるだけお金をかけずにいい番組をつくることを考えなければなりません。もうひとつは、後進の育成という仕事もあります。ことにアナウンサーは言葉を大切にすることだと思っています。

ただ、時代の流れがありますから、私の時代のような“厳しさ”を求めるとダメな場合もあります。例えば、昔は現場に行くと自分の仕事以外にも手が空いていたら手伝う、ということがごく当然のことでした。手伝わなければ生意気だといって先輩から怒られたものですが、今は、どうもそうではない。そのあたりの折り合いを上手にしながら若い人を育てていく必要があります。アナウンサーは放送の世界では「最後の砦」です。その人が持っている力量がいかになく発揮されるわけです。詰めの甘い取材とか勉強不足がすぐに出てしまうことをしっかりと知るべきでしょう。あるいは緊急事態に直面したときの対応の仕方にもアナウンサーの力量がすぐに表れるものです。その意味で、後輩のみなさんの中で、これから放送業界で仕事をしてみたいと思っている人は、基礎をしっかりと身につけてほしいです。ことにアナウンサー職になりたいと思っている人は、話し方の基礎を身につけておくべきだろうと思います。

私は、そろそろ現役引退という年代に近づきつつあるのですが、若い人たちと同じような目線を持っているつもりですし、精神的な若さは維持しているつもりです。残る問題は肉体的な若さですが、足腰を鍛えまだまだ頑張っていきます。

(インタビュアー・吉岡精一)

# 本学の出前講義と高大連携授業について —入学後のミスマッチを防ぐために—

入試部長 真柄 祥吾

本学で実施している出前講義（本学教員が高校に出向いて行う授業）の概要は以下のようになっています。まず毎年度入試部から各教員に対して、高校からの出講要請があった場合に対応できる講義のテーマとその内容の概略等を提出して頂いています。その際に高大連携授業（本学と提携協定を結んでいる高校から受講を希望する高校生を募り、大学で設定した日時に大学に来て頂いて、大学で設定したテーマの授業を受ける）にも応じて頂けるかどうかについても確認しています。今年度は、108人の先生から231のテーマが出されています。これに対し高校からは、平成23年度の実績で83の高校から出前講義の依頼があり、延べ127人の本学教員が出向いて講義を行っています。その数の多さと内容の豊富なことは道内の他大学と比べても十分誇り得るものと自負しているところです。また本学といろいろな形で情報交換している道外の複数の大学関係者からも同様な賞賛の声が寄せられているところです。1人でたくさんのテーマを出される積極

的な先生や、複数の高校から何度も依頼を受ける先生もいます。

出前授業や高大連携授業の目的はいろいろありますが、主要な目的の一つは、高校生に大学の雰囲気の一部を体験してもらうことにあります。また、もう一つは高校生が大学・学部・学科を選択する際の判断材料を提供することにあります。別途実施しているオープンキャンパスも同様な目的を持っています。18歳人口の減少とともに、数の上では大学全入時代になっています。明確な入学動機や意識を持たないまま、学力のみを判断材料として進路を指導され、入れる大学に入ってしまう入学後のミスマッチに悩み、進路変更を余儀なくされるケースを防ぐためにも、これらは今後より一層重要になるものと考えています。幸いなことに本学では協力していただく教員やテーマ数が多く、その内容がバラエティに富んでいるので、高校側の希望に幅広く柔軟に対応できる体制になっています。

## 入試環境10年間の変化

入試課長 堀内 彰

「ここ10年間の大学を取り巻く環境が、どのように変化してきたのだろうか？」今回は、北海道の高校を卒業した生徒の大学への進学状況（表1上段）と北海道に所在する大学の入学者の状況（表1下段）の10年間の推移を検証しました。大学進学状況（表1上段）においては、男子と女子の推移、国立・公立・私立の推移、北海道外と北海道内の推移の3点について検証し、また、入学状況（表1下段）においては、男子と女子の推移、国立・公立・私立の推移の2点を検証しました。

北海道の高校生の進学状況ならびに北海道の大学の入学状況の両面にわたり、男女の比率は、ここ10年間で大きく変化してきました。10年前（平成15年度入試）は男子約65%・女

子約35%であったものが平成24年度入試においては、男子約60%・女子約40%と女子の割合が大きく増加しています。実際の進学者・入学者数で見ると、少子化に伴い男子の大学進学者が減る（表1上段：89.3%〔△1,427人〕、表1下段：84.4%〔△2,070人〕）一方、女子は、大学進学率の上昇が少子化の影響を上回り進学者・入学者ともに増加（表1上段：109.6%〔716人〕、表1下段：107.4%〔485人〕）しています。女子の大学進学率の上昇は今後も当分は続くものと予想されますので、この傾向はさらに強くなると思います。

第2点として、進学先としての大学、国立・公立・私立に変化はあったのだろうか？ 国立大学においては、進学状況・入学状況ともに微増（表1上段：102.9%、表1下段：103.3%）といえますが、少子化により受験人口が減っていることを考慮するならば、このような環境下でも国立大学は確実に入学者を確保しているといえます。公立大学の推移をみると平成18年度から大きく増加していますが、主な要因は、平成18年4月に札幌市立大学が開学したことによるものです。公立大学も国立大学同様に入学者の推移から定員を確保しているといえます。これに対し私立大学は、非常に厳しい状況にあります。北海道の高校生の大学進学先としての私立大学は、ここ10年間で1,124名（表1上段：92.6%）減少しました。さらに北海道の私立大学の入学状況は、1,977名（表1下段：85.5%）も減少し、定員割れを起こしている大学も少なくありません。今後、少子化の進行とともにその影響はさらに大きくなり、より厳しい状況になっていくものと思われま（参考：表2本学推移）。

最後に、北海道の高校を卒業された方が、北海道内の大学に進学するのか？それとも北海道外の大学に進学するのか？を比較してみると、10年前は道内比率71.2%、道外比率28.8%でしたが、平成24年度においては、道内比率69.7%、道外比率30.3%と3割以上の高校生が道外に進学している状況になっています。首都圏・関西圏を中心とする大手の大学や東北の弘前・岩手大学など国立大学も積極的に北海道の高校生を獲得するために触手を伸ばしてきています。

今後、北海道内の私立大学が生き残るために、各大学の真の力が試される厳しい時代を迎えるといえます。

表1 出資高校の所在地(北海道)の大学進学状況・大学の所在地(北海道)の大学入学状況

入試年度	平成15年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	H24/H15対比
出身高校の所在地・北海道							
大学進学者数	20,713	21,033	21,145	20,861	20,636	20,002	96.6%
うち大学進学者数(男子)	13,284	13,163	13,128	12,917	12,432	11,857	89.3%
うち大学進学者数(女子)	7,429	7,870	8,017	7,944	8,204	8,145	109.6%
うち国立大学への進学者数	4,674	5,140	5,101	4,813	5,073	4,810	102.9%
うち公立大学への進学者数	22.6%	24.4%	24.1%	23.1%	24.6%	24.0%	
うち私立大学への進学者数	827	1,107	1,096	1,102	1,135	1,104	133.5%
うち道内大学への進学者数	4.0%	5.3%	5.2%	5.3%	5.5%	5.5%	
うち道外大学への進学者数	15,212	14,786	14,948	14,946	14,428	14,088	92.6%
うち道内大学への進学者数	73.4%	70.3%	70.7%	71.6%	69.9%	70.4%	
うち道外大学への進学者数	14,755	14,941	14,831	14,906	14,317	13,946	94.5%
うち道外大学への進学者数(流出率)	71.2%	71.0%	70.1%	71.5%	69.4%	69.7%	
うち道外大学への進学者数	5,958	6,092	6,314	5,955	6,319	6,056	101.6%
流出率	28.8%	29.0%	29.9%	28.5%	30.6%	30.3%	
大学入学者数	20,216	19,370	19,190	19,366	18,682	18,661	92.3%
うち大学入学者数(男子)	13,300	12,493	12,236	12,347	11,461	11,230	84.4%
うち大学入学者数(女子)	6,916	6,877	6,954	7,019	7,221	7,431	107.4%
うち国立大学の入学者数	34.2%	35.5%	36.2%	36.2%	38.7%	39.8%	
うち公立大学の入学者数	5,719	6,089	5,922	5,861	5,956	5,910	103.3%
うち私立大学の入学者数	28.3%	31.4%	30.9%	30.3%	31.9%	31.7%	
うち道内大学の入学者数	847	1,076	1,093	1,103	1,078	1,078	127.3%
うち道外大学の入学者数	4.2%	5.6%	5.7%	5.7%	5.8%	5.8%	
うち私立大学の入学者数	13,650	12,205	12,175	12,402	11,648	11,673	85.5%
うち私立大学の入学者数	67.5%	63.0%	63.4%	64.0%	62.3%	62.6%	

※学校基本調査のデータを利用 ※スペースの関係から10年前および直近5年間の係数を掲載

表2 北海道大学入学者推移(参考)

入試年度	平成15年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	H24/H15対比
入学定員	1,801	1,780	1,780	1,780	1,780	1,780	98.8%
入学者数	2,154	2,178	2,107	2,090	1,978	2,075	
入学者数	10.7%	11.2%	11.0%	10.8%	10.6%	11.1%	96.3%
(北海道の全大学に占める本学の割合)	15.8%	17.8%	17.3%	16.9%	17.0%	17.8%	
(北海道の私立大学に占める本学の割合)							

※北海道大学入学者数は4/1時点 ※スペースの関係から10年前および直近5年間の係数を掲載

# 就職戦線

キャリア支援センター事務長 吉村武彦

昨年12月から3年生の就職活動が本格スタートし、いよいよ4月から企業の採用選考活動が開始されます。学生たちは、これまで行ってきた自己分析や業界研究、企業研究を基に志望する企業の採用試験を受けていきますが、それらの準備が十分できているか否か、また、自身の実力を発揮できるか否かがカギになってきます。企業側は、当然のことながらより良い人材を求めており、その結果として、度々報道でも取り上げられていますが、いくつもの企業から内定を得られる学生がいる一方で、全く得られない学生が増えているという『2極化』が激しさを増しています。キャリア支援センターとしては、内定を得られない学生への支援をする一方で、そこまでも辿り着いていない「動きの遅い学生」や、「動こうとしない学生」に対して、如何にして仕事への意識を高め、危機感を持たせて就職活動に立ち向かわせるかも大きな課題となっています。

## 公務員・教員登録状況 (2013年1月末現在)

	2013年/ 3月卒業	2012年/ 3月卒業	
国家公務員総合職	1	1	
国家公務員一般職	18	29	
国税専門官	10	13	
労働基準監督官		1	
法務教官		2	
裁判所職員一般	11	2	
自衛隊幹部候補生		8	
自衛隊一般曹候補生	11	15	
北海道職員	上級(一般行政)	8	4
	上級(技術系)	1	
	中級(警察行政)	29	17
	中級(小中学校事務)	11	10
	障がい者	1	
その他道府県		1	
北海道職員	警察官(男性)	77	91
	警察官(女性)	10	12
警視庁警察官	6	7	
その他警察官	3		
札幌市	行政	42	32
	技術系	3	5
	学校事務	3	1
	消防	13	10
その他市町村	99	123	
その他 ※	98	94	
小計(公務員)	455	478	
公立学校教員	12	3	
総計	467	481	

※国立大学等独立行政法人、東京消防庁、横浜消防局など

## 学部別業種内訳 (2013年1月末現在)

	経済学部	経営学部	法学部	人文学部	工学部	合計
建設業	6	6	7	2	47	68
製造業	20	20	10	4	3	57
運輸・通信業	16	27	13	11	27	94
卸売	35	40	18	11	7	111
小売	27	55	22	25	7	136
金融業	45	38	29	7	2	121
不動産業	3	6	4	4	1	18
サービス業	44	49	31	21	17	162
公務員	44	25	74	12	10	165
その他	2	1	1	2	1	7
合計	242	267	209	99	122	939

更に、報道などでは徐々に景気も回復傾向にあるようにも聞かれますが、学生たちの就職活動環境は、依然として厳しい状況から未だ脱することが出来ない状況です。

このような厳しい就職環境の中で、保護者から学生への支援をより良いものとしてもらうために、一昨年から「保護者向けの就職活動勉強会」を豊平校舎にて開催しましたが、昨年は、大学の保護者懇談会の中に組み入れて札幌、旭川、帯広、函館の4地域で実施し、多くの保護者の方々に参加いただくことが出来ました。参加していただけた保護者の方々には、親としてまた社会人の先輩として、本人(学生)たちのプレッシャーに結びつかないような支援方法を知っていただけたと考えています。このことにより、家庭でも就職に関する話題が自然に会話となり、学生と親との間に情報の共有ができるようになっていくことを望んでいます。

また、早期に内定を得て進路が決まった学生や、公務員試験に合格した学生で構成する学生による学生のための就職支援学生団体(ミナトコムジュニア、コムエッグ)が、積極的に後輩の支援のために活動してくれ、学生の目線に立った就職支援セミナーや勉強会、模擬面接、就職相談などが実施され、多くの学生が参加しています。

更に、一昨年4月から本学においても、キャリア教育科目として「キャリアガイダンス」という科目を開講しています。この科目は、将来社会人として十分に社会貢献できるような学生に育てることを狙いとしており、この科目を通して自らを分析し、自らの将来目標を立て、就職活動に対する意識を高められるよう講義を開講していただいています。

また、昨年12月4日には、同窓会のご協力を得て、同窓会副会長であり株式会社ナシオの取締役会長であられる名塩良一郎様に、就職特別講演会にてご講演いただきました。参加した学生たちは、真剣な眼差しで聞き入っており、学生たちの意識に一石を投じていただけたものと思っています。

今後においても、学生にとって厳しい就職環境が暫く続くものと思われまので、我々キャリア支援センターとしてもより有用な支援を行うため、既存のガイダンスやセミナー、講座等についてより充実した内容にするべく、検討を重ね改善してまいります。既に本学を卒業されたOB・OGの皆様のお力もお借りし、本学学生への就職支援の充実を図りたいと考えております。



学生による学生のための就職セミナー



就職特別講演会 名塩良一郎氏



業界研究会(Live Voice)



法学部教授・学部長

## 樽見 弘紀

—担当科目 公共政策論

### ■略歴

1959年福岡県生まれ。ニューヨーク大学大学院修士課程（行政学）修了。立教大学大学院博士後期課程（政治学）単位取得。テレビの脚本・構成の仕事を経て、1999年より本学法学部勤務。2005年より同学部教授。2011年より法学部長および「法学部カフェ店長」を務める。

## 法学部を丸ごと出前する「法学部カフェ」

「今日は明日の伏線である」を座右の銘としている。出典は他にあるとの指摘でもあればすぐに改めるが、ひとまず出処は自分、と考える。たとえ今なしていることに意味や自信が見いだせなくとも、やがて必ずや合点が行く日がやって来る、ということ。であるがゆえに、何事も手抜きはこれを厳にいましめねばならない、となる。

### 自称「法学部カフェ店長」を名乗る

東京で過ごした20代のほぼ全部、僕はテレビの台本作家であった。これといった明確な職業観を持ち合わせていた訳ではない。学生時代、縁あって書いた1本のテレビ台本により知己を得て、あれよあれよという間に在京のテレビ局各局で台本を書かせていただくことに。収入もちょっとしたものだ。それが、30歳を目前にほんの休憩のつもりでアメリカの大学院に留学をしてみれば、その後、およそ10年の年月を経て豊平キャンパスの研究室に場を得ていた、といった恰好である。成り行きも成り行き、しかも研究者としては依然として駆け出しの僕が、一昨年4月、所属の法学部で学部長に任じられてしまったのだからこれにはほとんど困った。

しかし、推挙されたからには、ひとまずは任期の2年を無為に過ごす訳にはいかない。折しも全国的な「法学部人気の陰り」が言われ始めた頃のこと、少なくとも道内では「学園大法学部」の神通力が効く今のうちに、そのブランディングに一段の厚みを増すべき、と考えた。長い話を短くすれば、それが「法学部カフェ」の立ち上げに思い至る一番の理由であった。期せずして昔とった杵柄としてのテレビ脚本や構成の技術の何がしかを、いまや「法学部カフェ店長」として活かすべきときが到来したのである。

### 仕事縁も親子縁も何でも借りる

以来、2年間で全18回の法学部カフェを学内外、遠くは美唄市、旭川市や北見市で開催してきた。夏季や冬季の長期休暇期間を別にすれば「ほぼ1ヶ月に1回の開催」を何とか遂行できた。これは、直接の担当である法学部広報戦略委員の面々の尽力に負うところが大きい。また、手前味噌ではあるが、人選の妙はなかなかのものだと悦に入っている。もちろん、これとて法学部教授会の全メンバーのコネをフル活用して綱渡りで行ってきた訳で、実際、知縁をたどるだけで願ってもないような方々が向こうから次々と飛び込んで来て下さるのだった。

たとえば、第15回法学部カフェ「スタジオジブリのもう一つの仕事：ジブリ美術館ができるまで」では、あの宮崎駿さん率いるアニメーション制作集団スタジオジブリの重役の一人であり、「館長」として三鷹の森ジブリ美術館の経営を担う中島清文さんが超過密スケジュールを押して来て下さった。その中島館長を引っ張ってきたのは、労働

## 研究室のいま

法が専門の浅野高宏法学部准教授である。浅野さん自身、弁護士資格を持ち、リアルな労働現場と学究とを架橋しながら活躍する超多忙な研究者。何を隠そう過去にスタジオジブリの職場の環境改善に尽力した経歴を持っている。中島館長を始め、ジブリスタッフの絶大な信頼を勝ち得ていてその法学部カフェご来店であった。

たとえば、第17

回法学部カフェ「マ

スコミへのはるか

かな道」では、ただ

いま「みのもんた

の朝ズバッ！」に

毎朝ご出演のTBS

アナウンサー・小

林悠（はるか）さ

んが貴重な休日返

上で駆けつけて下

さった。憧れの「女

子アナ」に熱い眼

差しを向ける多く

の聴衆のなかに頭

抜けて背の高い同

僚教員の姿が……。英語教育が専門の

リチャード・キザ

法学部教授、その

人である。ことさ

らに謳ったりはし

なかったのだが、

何を隠そう小林さんはキザー先生の

実の娘さん。子供の

時はキザー先生に

手を引かれて豊平

キャンパスにも一

度ならず遊びに

来ていた、という

のだから、「今日は

明日の伏線」と

はまさにこんなこ

とを言うのだろう。



第15回法学部カフェ出演の中島さん(中央)と浅野さん(右)



第17回法学部カフェ出演の小林さん

### 大学アウトリーチの時代

近時、大学の役割を言うとき、教育と研究に加えて社会的使命なるものが必携だという。法学部カフェ店長として、法学部長として、社会的使命という大学が持つもうひとつの役割を僕は「アウトリーチ」と表現することが多い。アウトしてリーチする、すなわち、豊平キャンパスという（事実としても、比喩表現としても）手狭な場所に坐して学生との「来客」を待つばかりではなく、出かけて行って様々な生活の現場、生業を持つ方々と繋がりをつけてこそ、教員の持つ多様な知見にリアリティが付与される、血が通う、と信じる。法学部アウトリーチに工夫を巡らす、迷いや道草の多かった僕のこれまでの人生も、このためなら何かお役に立てることもありはしまいか、——日々、そんな自己暗示をかけかけ、法学部カフェ店長その他の学部長業務に勤めている。



# 瑞宝中綬章受章

## 名誉教授 (第7代学長) 熊本信夫先生



平成8年から2期8年あまり学長を務めた熊本信夫名誉教授が、長年の教育研究功勞に対して瑞宝中綬章を受章されました。

熊本先生の略歴、功績等については次の通りです。

【略歴】昭和36年3月北海道大学法学部法律学科卒業、昭和39年3月北海道大学大学院法学研究科修士課程修了、昭和42年4月本学法学部講師。

昭和48年6月博士(法学)(北海道大学)、昭和49年6月カリフォルニア大学(バークレー校)ロースクール修士課程修了、昭和49年4月本学教授、平成8年11月に第7代学長に就任、2期8年余の任期中、学部・学科の新増設、大学院修士課程、博士課程の設置の中心的な役割を果たし、新増設された学部・学科・大学院の数は13に及び、北海道内私学唯一の法科大学院(ロースクール)の設置を推進されました。平成20年3月退職、同年4月から名誉教授をされています。

【教育活動】学部教育に加え、大学院法学研究科の教育では、開設以来修士、博士(後期)の両課程において、行政法、医事法、生命倫理に関わる講義、演習を担当されました。最初の博士課程修了者の指導に自らあたられました。さらに、平成17年4月に開設された法科大学院(法務研究科)の講義を定年退職まで担当し、地域社会を担う法曹実務家の養成に尽力されました。

ミシガン大学のロースクールでの留学経験を活かし学部教育に対話型授業を取り入れた先駆者のひとりでもあります。

### 熊本信夫先生の叙勲をお祝いして

この度の、熊本信夫先生の瑞宝中綬章の受章を心よりお慶び申し上げます。

永年に亘る教育振興の御功績と、第7代学長としての教育研究の成果による御栄誉であり、恩師の叙勲を教え子の一人として大変嬉しく感じております。僭越ではございますが、一言御祝の言葉を述べさせていただきます。

昭和53年、法学部II部に入学した私は、特別国家公務員として陸上自衛隊に勤務しながらの通学でしたが、年代や職種が異なるII部の学生達にも、熊本先生はいつも真剣に御指導下さいました。

行政法の講義中には、マイクを持って広い教室を移動されながら学生に質問を与える先生に緊張することもありました。また、受講態度への注意などもあり厳しい授業でありましたが、話を聞く際の心構えが身につく現在の仕事に役立っております。

先生ご自身の海外での留学体験談なども交えての講義は非常に興味深いものでした。ITなどが無い時代に授業と関連した世界の最新情報を熱心に私達に御教授下さったことに深く感謝しております。井の中の蛙にならず、俯瞰の視点を持ちつつ客観的に物事を検討することの重要性を学びました。

ゼミを決める際に私は迷わず熊本ゼミにしました。当時から行政法について興味があり、現在の行政書士の職業にも繋がっております。大変活動的なゼミで夏と冬には合宿も行いました。合宿の際、先生は講義とは違いいつも笑顔で私達と一緒に楽しんでおられました。夏の合宿では占冠町に行き研修終了後はマラソンで汗を流し、冬にはニセコヘスキー合宿に行き時間を忘れて遅くまで皆で語り合いました。懐かしい青春の思い出です。

### 法学部 熊本ゼミ 昭和58年卒 成田 眞利子

在学中に大学にご縁があり臨時職員として数年間お世話になりました。法学部の判例演習室での勤務でしたが、毎日法学部の教授の方々が文献検索に訪れ、熊本先生も来られるといつも励ましのお声を掛けて下さいました。

無事に卒業が決まった時、ゼミ仲間からいただいた記念の色紙に記された先生からの御言葉「誠意をもって相手に対するのは、人生をみずから開く最大の戦略である」。これは私が生きる上での大切な道標であり、先生に教えをいただいたことを誇りにこれからも精進して参ります。

熊本先生におかれましては、これからも教育者として先生の後に続く若き者達へ末長く光を与え続けていただきたいと願っております。今後の益々の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。



1983年秋 熊本先生を囲むゼミの仲間達

## OPEN SPACE

オープンスペース

### 衆議院議員総選挙当選者 (2012年12月16日投票)

北海道1区 船橋 利実氏 昭和58年工学部土木工学科卒業

北海道4区 中村 裕之氏 昭和59年経済学部1部経済学科卒業

### 平成24年「新司法試験」4名合格

平成24年新司法試験の合格者が2012年9月11日に法務省から発表された。本学法務研究科(法科大学院)からは33名が受験し4名が合格。これで本学修了生5年間の合格者合計は26名(平成20年度2名、21年度7名、22年度3名、23年度10名、24年度4名)となった。

〈新司法試験合格者〉 ※敬称略

小林 祐也、小原 正弘、菅原 剛、小林 裕和

### 【平成25年度上半期行事予定】(平成25年4月～9月)

行事	支部総会(予定)	行事	支部総会(予定)
4月 入学式 (4/2)	千歳支部(4/11) 山岳部OB会(4/20) グリークラブOB会(4/20) 写真部OB北彩会(4月または5月) 苫小牧支部	7月	札幌市役所支部(上旬) 札幌東区支部 つうけん支部 東園会
5月 第1回幹事会 (5/20)	岩見沢市役所支部(5/25) 北翔会(下旬) 北海学園大学支部(下旬) 小樽支部 江別市役所支部	8月	会計学友会
6月 第2回幹事会 (6/5) 評議員会 (6/25)	経五期会(6/5) 経六期会(6/6) 静内支部(6/7) 関西支部(6/8) サッカー部OB会(6/15) 帯広信金支部(6/15または6/22) 道南支部(6/28) 蝸牛会(6/30) 岩田地崎支部(中旬) 空知支部(6月または7月) 道庁支部	9月 第3回幹事会 (9/4) 会報発行 (9/15)	稚内支部(9/14) 経三期会(9/14) ゆうほう会(9/19)

※支部総会の詳細については、同窓会ホームページ、または同窓会事務局までお問い合わせください。

支部紹介

# 写真部OB北彩会

北海学園大学同窓会「豊平会」の各支部を紹介します。  
2013年で創部63年目を迎える写真部のOB会北彩会です。

創立：平成19年

〈会長〉

泉澤 宏昭 (経済学部・昭和42年卒業)

〒064-0809 札幌市中央区南9条西20丁目1-1  
(株)ヒロフォト・アド  
TEL 011-513-5555



泉澤 宏昭 会長

▶写真部創部の頃

名塩良一郎写真部名誉会長の話によると、北海学園大学と写真部の歩みは、ほぼ同じで北海短期大学創立されその2年後に4年制の北海学園大学が誕生しました。

写真部は当時の北海高校の写真部出身者を母体に発足しており、当時大学の写真部としては北海道大学以外に無かったと記憶しておられます。2010年に創部60周年の記念誌「真眼」を発刊しているため今年2013年で創部63年目を迎えることとなります。

▶写真部の部活動

63年の部活動の中で前半の20年は部員一丸となつての写真制作活動は、札幌中心部でのスチール写真展、体育会と文協がらみの東北学院大学の交流戦、道内公演の同行取材等、写真部ならではの活動を展開しながらテーマを決めての組写真制作を昭和37年頃、穴田武久部長だった頃、札幌市の移動幼稚園「なかよ子供館」が写真部として第1回目の組写真をHBC三条ビルで発表し世間の注目を浴びた様です。その2年前、芝木正隆部長だった頃横丹半島の川白に2年掛かりで撮影を敢行したが残念ながら組写真では無くスチール写真として、今の大五ビルのギャラリーで展示、その後、第2回目林進士部長「有珠優健学園」をHBC三条ビルで発表、この頃から北海学園写真部の技術が全道的に認知されるようになった。第3回目久々津邦彦部長で前年に制定された「札幌市民憲章」をテーマに組写真をHBC三条ビルで発表。第4回目は泉澤宏昭部長で藤女子大学と共同制作「札幌駅」を三菱ショールームで発表。



名塩名誉会長の傘寿を祝う会 (2012年9月25日)

この頃から北海学園写真部の技術が全道的に認知されるようになった。第3回目久々津邦彦部長で前年に制定された「札幌市民憲章」をテーマに組写真をHBC三条ビルで発表。第4回目は泉澤宏昭部長で藤女子大学と共同制作「札幌駅」を三菱ショールームで発表。

▶初めての女子部員

昭和40年4月に学園大写真部に、女子部員は禁制の歴史を破り初めての女子部員、堀元(成瀬)道子さん(平成11年ご逝去)が入部、翌年には橘井信恵さんが入部、現役の写真部員の半数を女子が占めているのが現状です。

第5回目、岡本和輝部長で「仁世鶴の人々」を東海銀行ロビーで発表。第6回目、成田民治部長で「漁業に生きる人々」を三菱ショールームで発表。第7回目、新井田一部長で「根釧の酪農」を三菱ショールームで発表。そして第8回目、中村弘史部長で「ヤマの叫び」を三菱ショールームで発表。これを最後に全国的に学生運動が激化し、当北海学園もこの渦に巻き込まれ写真部の活動も沈静化するのをただじっと待っているしか無かったようです。

▶プロとして写真の道に進んだ人々

写真部創部から63年の時を刻むとプロの写真家や写真関連の職業に就いているOB会員もいますので私が知っている範囲で思い出しながら記しておきます。プロ第1号がヒロフォト・アド代表の泉澤宏昭、札幌コマースフォト代表の岸本日出雄、柴田三雄写真事務所代表の柴田三雄、スタジオトライ代表の連井敬、ラポット代表の佐々木郁夫、写真関連:スタジオジュピター代表の安藤孝雄(平成18年ご逝去)、HBC映画社勤務朝田道弘(平成16年ご逝去)米澤清和、菊池正智、タイチ映像部勤務の八重崎邦宏、ルモンド写真企画の長島均、産経新聞社写真報道局勤務柴田隆、光映堂前代表の鈴木元、カメラのインオ店長の高谷俊哉、その他にもまだ写真関連の職業の方はいるとおもいますが今回は紙面の関係でこの位にしておきます。



「日本人初の女性宇宙飛行士、向井千秋さんに乗せて飛び立つスペースシャトル「コロンビア」(1994年7月8日)」 柴田三雄



「厳冬の十勝川に舞う薄氷」岸本日出雄



「新緑霧中」 泉澤宏昭



「十勝岳連峰に昇る天の川」 連井 敬

# 支部だより

## 東京支部 総会

副支部長 剣持真之助 記

平成卒のメンバーも着実に増え、毎年同窓会の中身は深化していると感じさせる今回の支部総会。今年は東京支部「首都圏会」と会の名称も新たに幹事も心機一転準備にあたりました。

10月12日、来賓として本校から木村学長、そして同窓会本部から高田事務局長を、また「旧札幌商校友会＝北海学園札幌高等学校校友会」から八重樫支部長、三浦事務局長を迎え、開会となりました。

総会は高田事務局長挨拶、木村学長挨拶、北海学園札幌高校(札幌)校友会支部長挨拶と続き、岩井久則支部長(昭47法)挨拶、支部幹事紹介、会計監査報告と続き、記念撮影の後、牧拓緒氏(昭32経)の乾杯の発声で懇親会開会となりました。

大先輩と若手の交流、旧交を温める諸先輩そして後輩、学長、事務局長を囲んでの語らいなど、時間を忘れてしまうくらいの話の輪が幾重にも広がる有意義なひと時でした。

後半は恒例となりました「お楽しみ抽選会」。はずれなしのくじ引きで、当たった方から好きなものを持って帰れる楽しいイベントです。景品を貰って一言スピーチ……。中締めは細田佳道顧問(昭32経)にお願いし、散会となりました。

名残惜しそうに帰るメンバーの笑顔に、また若い世代のメンバーの情熱あふれる表情に、来年の総会の成功を期す我々幹事一同でした。



## グリークラブOB会 第2回演奏会

会長 田村 英治 記

北海学園大学グリークラブは1951(昭26)年に創部され、1952(昭27)年大学新設にあたり23名で正式発足しました。そして創部60周年を迎え、OB数も500名を超え、時代の流れとともに、2年前より現役グリークラブは混声合唱団となりました。

1979(昭54)年正式にOB会が発足し、1998(平10)年にはOB会を再編成し、札幌合唱連盟に加盟、1999(平11)年市民芸術祭大賞受賞、2007(平19)年市民芸術祭奨励賞受賞、2008(平20)年に大学同窓会においてグリークラブOB会支部として承認され、同年OB単独の第1回演奏会を開催しました。

早いものであれから4年、大学同窓会のご支援もいただき2012(平24)年10月7日(日)札幌サンプラザコンサートホールにおいて第2回演奏会を開催することができ、盛会かつ大好評のうちに終演することができました。今回の演奏会では、グリークラブ団旗とともに、同窓会グリークラブOB会旗もステージに掲げさせていただきました。また、大学同窓の夕べでは学歌、学生歌も歌わせていただきました。

今後も継続的な世代を超えた幅広いOB会活動を展開し、母校の発展及びグリークラブの発展に寄与してまいりたいと思います。



豊陽会



経三期会



根室支部



会計学友会

### 支部総会開催報告

(平成24年9月以降)

- H24. 8. 4 北門会夏季研修会
- 9.15 経三期会
- 9.20 稚内支部
- 9.30 ゆうほう会
- 10.12 東京支部
- 10.20 会計学友会
- 10.20 経八期会
- 10.26 根室支部



応援団 OB 尚志会



経八期会



稚内支部

- H25. 1. 9 豊陽会
- 1. 9 北門会
- 2. 2 応援団 OB 尚志会
- 2.15 木端会
- 2.16 北社会



北海学園網走会 地域活動報告



ゆうほう会

# クラブ・サークル活動通信

## 卒業生、サークルOB・OGの皆さん、 応援よろしくお祈りします！

### 【ソフトテニス部】 主将 山森 健司 法学部2年

ソフトテニス部は現在、男子24名、女子7名の計31名で活動しています。春から秋にかけて外での練習が可能な時期は清田グラウンドや学園裏テニスコート、冬場は学園体育館、学外施設を利用し練習しています。

ソフトテニス(軟式)はテニス(硬式)や他のスポーツと比べるとマイナースポーツで、あまり経験する機会自体もないのではないかと思います。ですが、今の部員には経験者はもちろんのこと、硬式をやっていた人や大学から始めた人もおり、他でも言えることかもしれませんが経験問わず楽しむことができるというところはソフトテニスの一つの魅力ではないかなと思います。

部は今年で60周年を迎え、改めてこの歴史ある部の一人であることを誇りに思い、これまで受け継がれてきた部の伝統、歴代の先輩方に恥じることはないよう部員一人一人精一杯日々の練習に励み、部の目標として掲げている男女ともに「1部昇格」を果たすためにも高い意識を持って活動していきます。



### 【平成24年度 除雪ボランティア「絆プロジェクト」】 学生課長 河村 洋行

平成25年2月6日(水)、大学の地域貢献・学生の社会参加促進を目的に、学生と地域の人々との「絆」を深める除雪ボランティアが執り行われた。

このボランティア事業には、自治会、街づくりボランティア団体の歴史、体育会アメリカンフットボール部、柔道部、ゴルフ部の総勢41名の協力学生が参加した。

平岸まちづくり協議会からの依頼は、中の島小学校、平岸児童会館、平岸まちづくりセンターの3ブロックであり、除雪内容は、会館、プール、倉庫の屋根の雪下ろし作業や狭い道路の拡幅作業など、多岐に亘ったが、3ブロックとも安全面に最大限の考慮が図られたものであり、学生達は、チームワーク良く若者らしい機敏な行動で、依頼内容をこなしていった。



ボランティアに参加した学生達の感想は、

「若い学生の体力を利用して、地域に貢献する事業として、今回の除雪ボランティアはよいものであると感じました。今後是非継続して行なうべきものだと思います。また、今後は可能であれば一般住宅の除雪も行えたらよいと思います。この除雪ボランティアは大学の地域貢献事業として規模を拡大していく価値のあるものです。」

一部自治会 小笠原春樹

「多くのサークルのみなさんに参加してもらえて良かったです。今後もまちづくり活動に多くの学生が参加していける環境を整えていければいいと思います。とても貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。」 HISTORY 今井 一裕

「このようなボランティア活動は初めての経験でしたが、地域の方とふれ合い、お手伝いさせていただき感謝される事で、ボランティアの楽しさを実感することができました。屋根の雪下ろし作業という体を動かす活動だったので、最後までやりきった時には、充実感、達成感を感じることができました。また、このような機会があれば、是非参加したいと思います。」 ゴルフ部 斎藤 大輔

「今日は、ボランティア活動をしてとてもうれしかったです。人の為にすることはとても楽しいことだと感じました。来年もまた参加したいと思います。」

アメリカンフットボール部 石川 圭太

「初めて除雪ボランティアに参加しました。マネージャーはあまりすることがなかったのですが、来年もあれば、もっと頑張りたいです。」

アメリカンフットボール部 吉川 玲奈

「天気の良い中、社会貢献しているという実感が湧いてきて、楽しかったです。」

柔道部 山内 大輔

「楽しく作業することができました。たまには、部活動以外に体を動かすのもいいですね。」

柔道部 斎藤 翔吾

ボランティアに参加した学生達は、「ありがとう」の感謝の言葉と、地域貢献できた達成感を胸に、心地よい汗を楽しみながら、まばゆい笑顔に満ち溢れ、「来年も是非参加したい」と感想を述べていた。

## 事務局からのお知らせ

### ◆支部長交替

#### ・旭川支部

支部 繁信 氏 ⇒ 齋藤 昂一 氏 (昭和44年経済) 平成24年12月14日付

### ◆訃報

#### 池田 衆男 氏

昭和43年法学部法律学科卒業  
昭和49年本学法学部講師・助教授・教授  
同窓会卒業期評議員(昭和43年～53年)  
同窓会副会長(昭和54年～平成24年)  
平成24年11月14日逝去(68歳)

#### 藤岡喜久男 氏 名誉教授

昭和47年本学法学部講師・教授  
平成24年9月10日逝去(91歳)

#### 池田 均 氏 名誉教授

平成元年本学経済学部助教授・教授  
平成24年10月9日逝去(74歳)

#### 中川 保弘 氏

昭和37年経済学部経済学科卒業  
同窓会卒業期評議員(平成11年～平成24年)  
平成24年11月23日逝去(73歳)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



### ◆在学生の皆様へ

豊平会報(本紙)は、年2回(3月・9月)発行し卒業生(正会員)の皆様へ送付しています。現在同窓会の予備会員である在学生の皆様にも同窓会活動を理解して頂く為に配布しております。



学園 vol.8  
スタッフ

「旅立ち」

大窪 淑絵 (平成9年3月法学部卒)

### 北海学園大学同窓会

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40  
TEL: 011-841-1161(内線1148) / FAX: 011-816-1001  
E-Mail: doso.hgu@k8.dion.ne.jp  
ホームページ: <http://www.hgu-dousoukai.org/>

#### 住所等変更届けのお願い

会員の皆様へ、お名前、ご住所、勤務先等に変更が生じた場合は、お手数でもFAX・ホームページ、または同封の「住所等変更届ハガキ」にて同窓会事務局までお知らせ下さいませようお願いいたします。個人情報と同窓会活動以外には使用いたしません。